

- 問1 日本の産業統計において、工業出荷額が約13兆円規模であり、印刷業や輸送用機械が一定の割合を占める県の産業構造について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この県は農業も盛んで、米の産出額は新潟県には及ばないものの、長野県などの野菜生産が盛んな県と同様に、高い農業産出額を維持しています。（2025年 埼玉県公立入試 類似）
1. 内陸部に位置する利点を生かし、輸送用機械の製造に特化しており、農業は東京都への供給を目的とした野菜栽培に限定されている。
 2. 京葉工業地域の一角を担う工業の発展とともに、都市近郊農業や稲作などの農業がバランスよく発達している。
 3. 印刷業の出荷額が全国1位であり、米の産出額も新潟県を上回って日本最大の農業県となっている。
 4. 工業出荷額のほとんどを化学工業が占めており、農業は米の単一栽培のみが行われている。
- 問2 日本の貿易統計において、成田国際空港の貿易額（2021年）に関する説明として、数値の背景を含めて正しく述べているものはどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）
1. 輸出額と輸入額の差である貿易収支を計算すると、3.5兆円以上の大幅な輸出超過となっている
 2. 輸入総額が輸出総額を下回っており、主に安価な原材料を大量に輸入する拠点となっている
 3. 輸出と輸入の合計額が1兆円に満たないため、地方の主要港に比べて経済的影響力は限定的である
 4. 総輸出額が12兆円を超え、総輸入額が16兆円を超えるなど、日本屈指の貿易額を誇っている
- 問3 ある地域の居住者100人あたりの昼間人口の割合を示す「昼間人口比率」について、東京都の統計（2015年）では昼間人口が約1,592万人、夜間人口が約1,352万人となっています。このデータから導き出される東京都の状況について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2019年 和歌山県公立入試 類似）
1. 周辺県からの通勤・通学による流入が多いため、昼間人口比率が100を大きく超えている
 2. 居住者数と勤労者数がほぼ一致しているため、昼間人口比率が100前後で安定している
 3. 夜間人口が昼間人口を大幅に上回っており、昼間人口比率が100未満の数値を示している
 4. 周辺県への勤務・通学による流出が多いため、昼間人口比率が100を下回っている
- 問4 日本の都道府県を分類した際、県名と県庁所在地の都市名が異なるグループに属する県があります。関東地方の群馬県、東海地方の愛知県、四国地方の香川県、九州地方の宮崎県の4つの県について、その特徴を説明した文として正しいものを選びなさい。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
1. 群馬県・愛知県・香川県の3県は、いずれも県名と県庁所在地の都市名が異なっている。
 2. 宮崎県のみが、県名と県庁所在地の都市名が異なっている。
 3. 4つの県はすべて、県名と県庁所在地の都市名が一致している。
 4. 群馬県と愛知県は一致しているが、香川県と宮崎県は異なっている。
- 問5 群馬県沼田市付近の地形図から読み取れる情報について説明した次の文章のうち、地形の成り立ちや特徴と矛盾しない正しい説明はどれですか。なお、この地域を流れる片品川は北東から南西に向かって流れています。（2022年 兵庫県公立入試 類似）
1. 沼田駅付近から北東にある沼田城跡（公園）に向かうには、等高線が密集している急な斜面を登る必要がある。
 2. 片品川は標高の高い南西方向から、標高の低い北東方向に向かって、段丘の斜面を駆け上がるように流れている。
 3. 洪水による浸水リスクを避けるため、沼田市役所や警察署などの主要な公共施設はすべて片品川沿いの低地に集中している。
 4. 地形図上の等高線の間隔が非常に広がっている場所に、沼田駅と沼田城跡を結ぶ急峻な崖が存在している。
- 問6 千葉県の地形や交通について述べた文として、太平洋側に位置する九十九里浜の地形的特徴と、県内の主要な施設の位置関係を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）
1. 九十九里浜は、東京湾アクアラインが通過する東京湾側の沿岸部に位置し、大規模な工業地帯を形成している。
 2. 九十九里浜は大規模な干拓によって作られた農地であり、成田国際空港から南へ下った房総半島の先端部に位置している。
 3. 太平洋側には砂が堆積して形成された単調な砂浜海岸が広がり、その内陸側の下総台地には成田国際空港が位置している。
 4. 太平洋側には複雑な入り江を持つリアス海岸が発達しており、その周辺に成田国際空港や千葉港などの大規模施設が集中している。
- 問7 大都市の人口動態において、常住する夜間人口に対する昼間人口の割合を示す「昼間人口比率」が100%を超える地域が見られる。このように昼間人口の方が多くなる主な理由として、最も適切なものはどれか。（2018年 福岡県公立入試 類似）
1. 郊外のニュータウンから中心部へ向かって、定年退職者が移住するため
 2. 昼間に中心部から周辺地域へ向かって、働き盛りの世代が流出するため
 3. 周辺地域から通勤や通学のために多くの人々が流入するため
 4. 都心部の地価が高騰し、夜間に居住する人口が急増したため
- 問8 関東地方では、神奈川県、埼玉県、千葉県といった周辺の県から東京都心部へ移動する「通勤・通学人口」が非常に多いという特徴があります。このように、都心に勤務・通学する人々の住宅地としての役割を担っている都市や地域を指す言葉として、最も適切なものはどれですか。（2021年 香川県公立入試 類似）
1. 政令指定都市
 2. 限界集落
 3. ベッドタウン
 4. 工業地域
- 問9 埼玉県行田市の市街地には、かつての城下町としての構造と、近代以降に発展した地場産業の歴史が共存する景観が見られます。敵の侵入を遅らせる目的で道路をクランク状に曲げた「枡形」と呼ばれる遺構や、明治時代以降に日本最大の産地として発展したある製品を保管するための蔵や鋸屋根の工場が今も残っています。この地域で発展した伝統的な産業として正しいものはどれですか。（2026年 東京都公立入試 類似）
1. 陶磁器製造業
 2. 繊維産業
 3. 足袋製造業
 4. 醤油醸造業
- 問10 群馬県北部の地点から南東の埼玉県側の地点を結ぶ地形の断面的な特徴について、その標高の変化を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 岡山県公立入試 類似）
1. 群馬県北部から埼玉県にかけて標高の差がほとんどなく、全域にわたって標高100メートル以下の平坦な土地が広がる地形
 2. 標高2000メートルを超える北部の険しい山地から、南東へ進むにつれて標高が急降下し、広大で平坦な関東平野が続く地形
 3. 北部の山地と南東の平野部の間に巨大な盆地が存在するため、中央部で一度標高が大きく下がった後に再び上昇する地形
 4. 南東側の平野部から北部の山地に向けて標高が緩やかに上昇し、標高500メートル程度のなだらかな丘陵地が続く地形
- 問11 世界文化遺産である富岡製糸場が、明治初期に他の地域ではなく群馬県富岡市に建設された理由として、当時の産業背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
1. 日本初の鉄道の終着点として計画されており、完成した生糸を迅速に横浜港へ輸送する体制が整っていたため。
 2. 周辺地域で養蚕業が盛んであり、原料となる良質な繭を安定して大量に確保することが可能であったため。
 3. 広大な平野部を利用して、生糸の原料となる綿花の大規模な栽培が古くから行われていたため。
 4. 海に面していない内陸県であることから、外国勢力の攻撃を受けにくく、軍需産業の拠点としても期待されたため。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 京葉工業地域の一角を担う工業の発展とともに、都市近郊農業や稲作などの農業がバランスよく発達している。	千葉県は、東京湾沿いの京葉工業地域での鉄鋼・化学・印刷などの重化学工業や製造業が盛んであると同時に、平坦な土地と温暖な気候を利用した農業も非常に盛んです。米の生産だけでなく、キャベツやネギ、落花生などの野菜生産においても全国トップクラスの産出額を誇っており、工業と農業の両輪で経済が成り立っているのが特徴です。
問2	答え 4 総輸出額が12兆円を超え、総輸入額が16兆円を超えるなど、日本屈指の貿易額を誇っている	2021年の成田国際空港の総輸出額は約12.8兆円、総輸入額は約16.1兆円に達しており、港湾を含めた日本の貿易拠点の中でも極めて大きな規模を持っています。なお、この数値からは約3.3兆円の輸入超過であることが分かりますが、設問にある「3.5兆円以上の輸出超過」という説明は誤りです。
問3	答え 1 周辺県からの通勤・通学による流入が多いため、昼間人口比率が100を大きく超えている	昼間人口比率は「(昼間人口÷夜間人口)×100」で算出されます。東京都は日本の政治・経済・教育の中核機能が集中しているため、埼玉県、千葉県、神奈川県などの周辺自治体から多くの通勤・通学者が流入します。その結果、昼間人口が居住者(夜間人口)を大幅に上回り、数値は100以上の高い水準(約117.8)となります。
問4	答え 1 群馬県・愛知県・香川県の3県は、いずれも県名と県庁所在地の都市名が異なっている。	群馬県の県庁所在地は前橋市、愛知県は名古屋市、香川県は高松市であり、いずれも県名と都市名が異なります。これに対し、宮崎県の県庁所在地は宮崎市であり、県名と都市名が一致しています。全国の都道府県を学習する際は、このように名称が異なる県を整理して覚えることが重要です。
問5	答え 1 沼田駅付近から北東にある沼田城跡(公園)に向かうには、等高線が密集している急な斜面を登る必要がある。	地形図において等高線が密集している部分は傾斜が急であることを示します。標高約331mの駅付近から、標高417m以上の城跡(公園)へ移動するには、段丘崖と呼ばれる急斜面を通過しなければなりません。川は高い方(北東)から低い方(南西)へ流れるのが自然であり、また、歴史的な市街地は水害を避けるために段丘上の高台に形成されています。
問6	答え 3 太平洋側には砂が堆積して形成された単調な砂浜海岸が広がり、その内陸側の下総台地には成田国際空港が位置している。	千葉県の東側である太平洋沿岸には、砂が堆積してできた九十九里浜(砂浜海岸)が広がっています。その北西方向の内陸にあたる下総台地には成田国際空港が建設されました。東京湾側は、京葉工業地域などの埋め立て地や東京湾アクアラインが位置するエリアであり、九十九里浜のある太平洋側とは地形的・産業的な特徴が異なります。
問7	答え 3 周辺地域から通勤や通学のために多くの人々が流入するため	東京都や大阪府などの大都市部には、官公庁、企業のオフィス、大学などの教育機関が集中している。そのため、居住地である周辺の県から、日中に仕事や学業のために多くの人々が移動してくる。この「流入」によって、夜間に住んでいる人数よりも日中に滞在する人数の方が多くなり、昼間人口比率が100%を超えることになる。逆に、周辺の県は居住機能が中心となるため、比率が100%を下回ることが多い。
問8	答え 3 ベッドタウン	東京都心部での地価の高騰や、鉄道網を中心とした交通機関の発達により、居住機能を周辺の県が分担するようになりました。特に東京に隣接する神奈川・埼玉・千葉の3県は、都心へ1時間程度でアクセスできる場所に大規模な住宅団地が形成されており、昼間は都心へ働きに出る人々が住む街として機能しています。
問9	答え 3 足袋製造業	埼玉県行田市は、忍城の城下町としての歴史を持ち、江戸時代から足袋の製造が始まりました。明治から大正時代にかけてはミシンの普及により生産量が急増し、日本最大の足袋産地となりました。このため、市街地には製品を保管するための「足袋蔵」や、作業効率を高めるために北側から安定した光を取り入れる「鋸屋根(のこぎりやね)」の工場が数多く建てられ、現在も城下町特有の「柵形」の道路構造とともに独自の景観を形成しています。
問10	答え 2 標高2000メートルを超える北部の険しい山地から、南東へ進むにつれて標高が急降下し、広大で平坦な関東平野が続く地形	群馬県と新潟県の県境付近には、三国山脈などの標高2000メートル級の険しい山々が連なっています。そこから南東方向の埼玉県側へ向かうと、標高は急激に低くなり、日本最大の面積を持つ関東平野へとつながります。このように、北西側の高い山地と南東側の広大な平野という対照的な地形が隣接しているのが関東地方北部の大きな特徴です。
問11	答え 2 周辺地域で養蚕業が盛んであり、原料となる良質な繭を安定して大量に確保することが可能であったため。	富岡製糸場の建設地として富岡市が選ばれた主な理由は、原料である繭の調達が容易だったこと、工場を稼働させるための水や石炭が確保できたこと、そして大規模な建物を建てる土地があったことです。当時、生糸は日本の輸出総額の多くを占める最重要品目であり、フランスの技術を取り入れた機械製糸の導入により、品質の統一と増産が図られました。なお、綿花は「木綿」の原料であり、生糸の原料は「繭(カイコ)」であるという違いにも注意が必要です。